

# 稲作だより

第 9 号  
穂 肥 編

令和3年7月5日発行  
山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト  
最上地域本部  
最上総合支庁農業技術普及課  
Tel 29-1329（稲作担当）

## 出穂期はほぼ平年並の見込みです！

現在、中干し中の圃場が多くなっており、少しずつ葉色が淡くなって来ています。生育診断を行ったうえで、**適期に適量の穂肥**を施用しましょう。

曇天や降雨が続く予報です。**いもち病の発生に注意しましょう。**

### ◎品種ごとの穂肥のポイント

**葉色が濃い場合は、適期に施用量を減らして対応しましょう！**

- 「はえぬき」は、10.4 葉期(出穂約 30 日前頃)に、莖数 700 本/㎡以下・SPAD 値 40 以下であれば、出穂 25 日前に窒素成分で 2.0kg/10a を上限に施用します。
- 「つや姫」は、10 葉期(7 月 10 日頃)の生育診断に基づき、莖数が 600 本/㎡以下かつ SPAD 値 39 以下であれば、出穂 30 日前に窒素成分で 1.5kg/10a の穂肥を実施します。葉色が濃い圃場は施用量を減らしましょう。
- 「雪若丸」は、出穂 25 日前、窒素成分は 1.5kg/10a を基本とします。**時期が遅れたり、窒素量が多いと玄米粗タンパク質含有率が高まるため要注意です。**
- 「あきたこまち」「ひとめぼれ」「コシヒカリ」などの倒伏しやすい品種は、中干しを確実に実施し、倒伏させない穂肥対応を行います。

※各品種に関する詳細は別途お問い合わせください

### ◎品種別施肥基準

品種名	施肥基準 (N/10a)		本年の予想	
	時期	施用量	出穂期	施肥時期
あきたこまち	出穂 20 日前	2.0kg	8/2~8/4	7/13~15
ひとめぼれ	出穂 20 日前	1.5kg	8/6	7/17
雪若丸	出穂 25 日前	1.5kg	8/7	7/13
はえぬき	出穂 25 日前	2.0kg	平坦 8/7	7/13
			中山間 8/12	7/18
つや姫	出穂 30 日前	1.5kg	8/12	7/13
コシヒカリ	出穂 18~15 日前	1~1.5kg	8/13	7/26~7/29

※葉色が濃い場合は、減肥対応し時期を遅らせずに施用しましょう。

※**出穂予測日は普及課が設置している生育診断圃等から推測**しています。今後の天候により前後する場合があります。

※地域間での出穂期の差などに関しては普及課まで問い合わせください。

## ◎気象変動に対応する技術対策

### ①高温対策

登熟期間の高温による白未熟粒や胴割粒の発生、千粒重の低下や食味低下を防ぐため、適期適量の穂肥の施用により登熟後期まで稲体栄養を維持しましょう。中干し期間終了後は飽水管理（足跡に水がある程度）とし、その後間断灌漑に移りましょう。なお、台風接近時のフェーンによる強風が予測される場合は、湛水して稲体を保護しましょう。

### ②低温対策

冷害に遭遇しやすい山間部等では、冷害防止策として前歴深水管理（幼穂形成期の深水）を積極的に実施しましょう。出穂25日前頃から10cm程度の深水にして、耐冷性を高めましょう。また、出穂14～7日前頃に17℃以下の低温が予想される場合には、15cm以上の深水管理を徹底し、不稔発生を抑制しましょう。なお、山間部等で灌漑水温が18℃以下と低い場合は被害を助長するため、温水チューブ等で水温の上昇を図りましょう。

## ◎いもち病の発生に注意が必要です！

本田での葉いもちの発生が平年より早く確認されています。予防が目的のコラトップ剤等は、7月上旬まで遅れずに施用しましょう。発生が多くなってからの施用では、十分な効果を期待できません。



葉いもちの病斑

今後も曇天や降雨等の葉いもち感染に好適な気象条件が続く予想です。以下のポイントに注意して、早期発見・早期防除を徹底しましょう。

- ①色が濃く生育過剰なところ、②朝露の切れが遅いところ、③風がよどむところ  
わずかでも病斑が確認された場合は直ちに治療効果の高い薬剤で防除しましょう。

## ◎斑点米カメムシ類は「やや多い」！ 草刈りを徹底！

県病害虫防除所の調査では、斑点米カメムシ類の発生は「やや多い」状況です。

### ☆現在実施すべき対策

- ① 畦畔・農道の草刈りを徹底する。
- ② 水田内の除草対策（特にノビエ、イヌホタルイ等）を徹底する。
- ③ 休耕田などで雑草が繁茂しているところは、耕起する。

**7/22～25 は草刈強化期間！**

**STOP！農作業事故！ 農作業中の熱中症にも要注意！**

**農薬危害防止運動実施中！（6/1～8/31）農薬の適正使用！**